



## SRST フォールバックモード

- [SRST フォールバック モードの前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [SRST フォールバック モードの制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [SRST フォールバック モードについて \(2 ページ\)](#)
- [SRST フォールバックモードの構成 \(7 ページ\)](#)
- [SRST フォールバック モードの設定例 \(13 ページ\)](#)
- [SRST フォールバック モードの機能情報 \(16 ページ\)](#)

### SRST フォールバック モードの前提条件

- Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータの IP アドレスは、Cisco Unified Communications Manager デバイスプールで SRST 参照として登録する必要があります。
- Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョンが、SRST モードに設定された Cisco Unified CME ルータにインストールされていること。
- 次の作業が完了していること。
  - [電話機用構成ファイルの生成](#)
  - [システムレベルパラメータの構成](#). SRST フォールバックモード時に PSTN 電話機と IP Phone との間のコールをサポートするには、**preference** キーワード付きで **max-dn** コマンドを明示的に構成する必要があります。
  - [Call Transfer および Forwarding の構成](#)

### SRST フォールバック モードの制約事項

- SRST フォールバックモードは、SCCP 電話にのみ適用されます。SIP 電話機はサポートされません。
- Cisco Unified SRST の構成に使用された **call-manager-fallback** コマンドは、Cisco Unified Cisco Mobility Express に対して構成されたルータでは使用できません。

- SRST フォールバックモードに対して構成した Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータで **telephony-service setup** コマンドと **auto assign** コマンドを有効化しないでください。SRST フォールバックサポート用ルータを構成する前に、**telephony-service setup** コマンドを使用した場合、セットアッププロセスによって作成される不要な Ephone ディレクトリ番号を削除する必要があります。
- SRST モードで Cisco Unified CME ルータにフォールバックする電話機の数、ルータでサポートされる電話機の最大数を超えることはできません。特定のルータを Cisco Unified Cisco Mobility Express バージョン用電話機の最大数を調べるには、「[http://www.cisco.com/en/us/products/sw/voicesw/ps4625/products\\_device\\_support\\_tables\\_list.html](http://www.cisco.com/en/us/products/sw/voicesw/ps4625/products_device_support_tables_list.html)」の該当する「Cisco Unified Cisco Mobility Express 対応ファームウェア、プラットフォーム、メモリ、および音声製品」書類を参照してください。
- フォールバックから作成される ephone-dn と ephone は、Cisco Unified Communications Manager またはアクティブな Cisco Unified CME システムの元の設定に含まれる情報量と比べて、関連付けられた情報が少ない場合があります。こうした状況が発生するのは、SRST モードの Cisco Unified CME ルータがフォールバック IP Phone から学習する情報量が、設計上限られているからです。たとえば、ephone-dn の構成に（内線番号が、E.164 アドレスで登録されないようにする）**number 4888 no-reg** コマンドがある場合、フォールバックすると、この情報が IP 電話機から学習できなくなるため、このコマンドの **no-reg** 部が失われます。
- SRST フォールバック ephone-dns および ephone の順番は、アクティブな Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Cisco Mobility Express ephone-dn および ephone の順番と異なります。たとえば、アクティブな Cisco Unified Communications Manager の ephone 1 が SRST モードの Cisco Unified CME ルータでは ephone 5 と番号が振られる場合があります。これは学習された ephone-dn および ephone の順序は ephone フォールバックの発生シーケンス（ランダム）によって決まるからです。

## SRST フォールバック モードについて

### Cisco Unified CME を使用した SRST フォールバック モード

この機能を使用すると、ルータはリモートのプライマリ、セカンダリ、またはターシャリ Cisco Unified Communications Manager インストールとの接続を失った場合、または WAN 接続がダウンした場合に、Cisco Unified IP Phone にコール処理サポートを提供できます。Cisco Unified SRST 機能が Cisco Unified CME によって提供されると、電話機のプロビジョニングは自動的に行われ、ハントグループや通話パーク、SCCP プロトコルを使用した Cisco Unity ボイス メッセージング サービスへのアクセスを含む、ほとんどの Cisco Unified CME 機能をフォールバックの間に電話機から使用できます。利点は、Cisco Unified Communications Manager ユーザが追加のライセンスコストなしに、フォールバック時により多くの機能にアクセスできることです。

この機能でフォールバックモード時に提供されるテレフォニー機能セットは限られています。これら機能は、Cisco Unified Cisco Mobility Express を使用して、SRST フォールバックサポートをサポートしていないため、次の機能が必要なお客様は、引き続き Cisco Unified SRST を使用します。

- フォールバック サービス時に 240 台を超える電話機
- Cisco VG 248 Analog Phone Gateway のサポート
- SRST フォールバック サービス時のセキュアな音声フォールバック
- SRST フォールバック サービスの、単純な 1 回限りの設定

Cisco Unified Communications Manager は、WAN により Cisco Integrated Services Router に接続されたリモートサイトにある Cisco Unified IP Phone をサポートします。この新しい機能では、Cisco Unified CME で使用可能な数多くの機能と、Cisco Unified SRST で使用可能な IP Phone 設定の自動検出機能との組み合わせにより、Cisco Unified Communications Manager との通信が中断したときにシームレスなコール処理が提供されます。

システムが障害を自動検出すると、Cisco Unified SRST は Simple Network Auto Provisioning (SNAP) テクノロジーを使用してブランチオフィスルータを自動構成し、ルータに登録されている Cisco Unified IP Phone の通話を処理します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager との WAN リンクまたは接続が復元すると、コール処理はプライマリ Cisco Unified Communications Manager に戻ります。

コール処理が SRST フォールバックモードの Cisco Unified CME にフォールバックするときに、限られた数の電話機機能が自動的に検出されます。Cisco Unified CME を使用した SRST フォールバックサポートの利点は、自分の内線の一部または全部に対して、多数の内線 (ephone-dn) とそれらが持つ追加機能とを含む、Cisco Unified CME 設定を事前に作成できることです。この設定には ephone-dn の設定が含まれますが、どの電話機 (MAC アドレス) がどの ephone-dn (内線番号) に関連付けられるかは識別されません。

事前作成した設定を数箇所の Cisco Unified CME ルータにコピーアンドペーストすることにより、同じようにレイアウトされるサイトに対して同じ総合的な設定を使用できます。たとえば、小売店が多数あり、それぞれに 5 ~ 10 台のレジがある場合、各店舗に同じ総合的な設定を使用できます。内線の範囲 1101 ~ 1110 を使用するとします。レジの数が 10 台未満の店舗では、設定に含めた ephone-dn エントリのいくつかを単に使用しないだけです。事前作成したよりも多い数の内線を持つ店舗では、自動プロビジョニング機能を使用して追加の電話機を設定します。店舗ごとに異なる唯一の設定は、個々の電話機の固有 MAC アドレスです。これらはフォールバック時に設定に追加されます。

電話機が SRST サービスのために Cisco Unified CME ルータに登録する場合、その電話機が特定の内線番号で設定されていることをルータが検出すると、ルータはその内線番号を持つ、既存の事前作成された ephone-dn を検索し、その ephone-dn 番号を電話機に割り当てます。その内線番号を持つ、事前作成された ephone-dn がなければ、Cisco Unified CME システムによって自動的に作成されます。このように、事前作成された構成がない内線には、WAN リンクでの障害発生後に電話機がルータに登録する場合に、SRST モードの Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータによって番号および機能が「学習」されたときに、自動的にその内線番号と機能が読み込まれます。

Cisco Unified CME 機能を使用した SRST フォールバック サポートでは電話機に問い合わせ、その MAC アドレスと、各電話機に関連付けられた内線と ephone の間の関係を学習できます。この情報は、各電話機に Cisco Unified Cisco Mobility Express **button** コマンドを動的に作成して実行し、各電話機に内線と機能を自動的にプロビジョニングするために使用されます。

次のシーケンスは、Cisco Unified Communications Manager の電話機が Cisco Unified Communications Manager との接続を失って SRST モードの Cisco Unified CME ルータにフォールバックするときに、それらの電話機に Cisco Unified CME が SRST サービスを提供する様子を説明したものです。

#### フォールバック前

1. 電話機は Cisco Unified Communications Manager で通常どおりに設定されます。
2. Cisco Unified CME ルータの IP アドレスを Cisco Unified Communications Manager デバイスプールの SRST リファレンスとして登録します。
3. Cisco Unified CME ルータで SRST モードを有効にします。
4. (任意) ephone-dn および機能を Cisco Unified CME ルータで事前作成します。

#### フォールバック中

1. フォールバック用に有効にされている電話機が、デフォルトの Cisco Unified CME ルータに登録します。ディスプレイ対応 IP Phone は、telephony-service 構成モードで **system message** コマンドを使用して定義されるメッセージを表示します。デフォルトでは、このメッセージは、「Cisco Unified Cisco Mobility Express」です。
2. フォールバック電話機の登録中に、SRST モードのルータが電話機への問い合わせを開始して、電話機と内線の設定を学習します。次の情報が、ルータによって、取得または「学習」されます。
  - MAC アドレス (MAC address)
  - 回線またはボタンの数
  - ephone-dn とボタンの関係
  - スピードダイヤル番号
3. **srst mode auto-provision** コマンドで定義されたオプションは、Cisco Unified Cisco Mobility Express が、学習した電話機および内線情報を実行中の構成に追加するかどうかを判断します。情報が追加された場合、**show running-config** コマンドを使用した際の出力に表示され、**write** コマンドを使用した際に、NVRAM に保存されます。
  - **srst mode auto-provision none** コマンドを使用して、Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータが Cisco Unified Communications Manager に SRST フォールバックを提供するようにします。
  - **srst mode auto-provision dn** または **srst mode auto-provision all** コマンドを使用する場合、Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータは、Cisco Unified Communications Manager から学習した電話機構成を実行中の構成に含めます。その後設定を保存すると、フォー

ルバック電話機は、Cisco Unified CME-SRST 上でローカルに設定された電話機として処理されます。これは、それらの電話機のフォールバック動作に悪影響を与える可能性があります。

4. フォールバック モード中、Cisco Unified IP Phone は定期的に（デフォルトでは）120 秒ごとに Cisco Unified Communications Manager との接続を再確立しようと試みます。手動で Cisco Unified Communications Manager との接続を再確立するには、Cisco Unified IP Phone をリブートします。
5. Cisco Unified Communications Manager との接続が再確立されると、Cisco Unified IP Phone は、SRST モードの Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータへの登録を自動的にキャンセルします。ただし、WAN リンクが不安定な場合、Cisco Unified IP Phone が Cisco Unified Communications Manager と SRST モードの Cisco Unified CME ルータとに交互に接続することがあります。

WAN 経由で Cisco Unified CME-SRST ルータに接続された IP Phone は、WAN 経由で Cisco Unified Communications Manager との接続を確立できるようになるとすぐに、自分自身を Cisco Unified Communications Manager に再接続します。ただし、WAN リンクが不安定な場合、IP Phone は Cisco Unified CME-SRST と Cisco Unified Communications Manager とに交互に接続し、その結果、一時的に電話サービスが失われます（ダイヤルトーンが聞こえなくなります）。こうした再接続試行は、WAN リンクのフラッピング問題と呼ばれ、IP Phone が正常に Cisco Unified Communications Manager に再接続するまで続きます。

WAN リンクの中断は 2 タイプに分類でき、1 つは発生頻度の低いランダムな停止でそれ以外は安定した WAN で発生し、もう 1 つは発生頻度の高い散発的な中断で数分間続きます。

Cisco Unified Communications Manager と SRST の間の WAN リンクのフラッピング問題を解決するために、Cisco Unified Communications Manager には、エンタープライズパラメータと [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration) ] ウィンドウの設定に [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration) ] と呼ばれるものが用意されています。（システム要件に応じて、管理者が使用するパラメータを決定します。）パラメータの値は、XML 構成ファイルで IP Phone に配信されます。

- Cisco Unified Communications Manager クラスタのすべての IP Phone について接続期間モニタ値を変更するには、エンタープライズパラメータを使用します。エンタープライズパラメータのデフォルトは 120 秒です。
- 特定のデバイスプールのすべての IP Phone について接続期間モニタ値を変更するには、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration) ] ウィンドウを使用します。

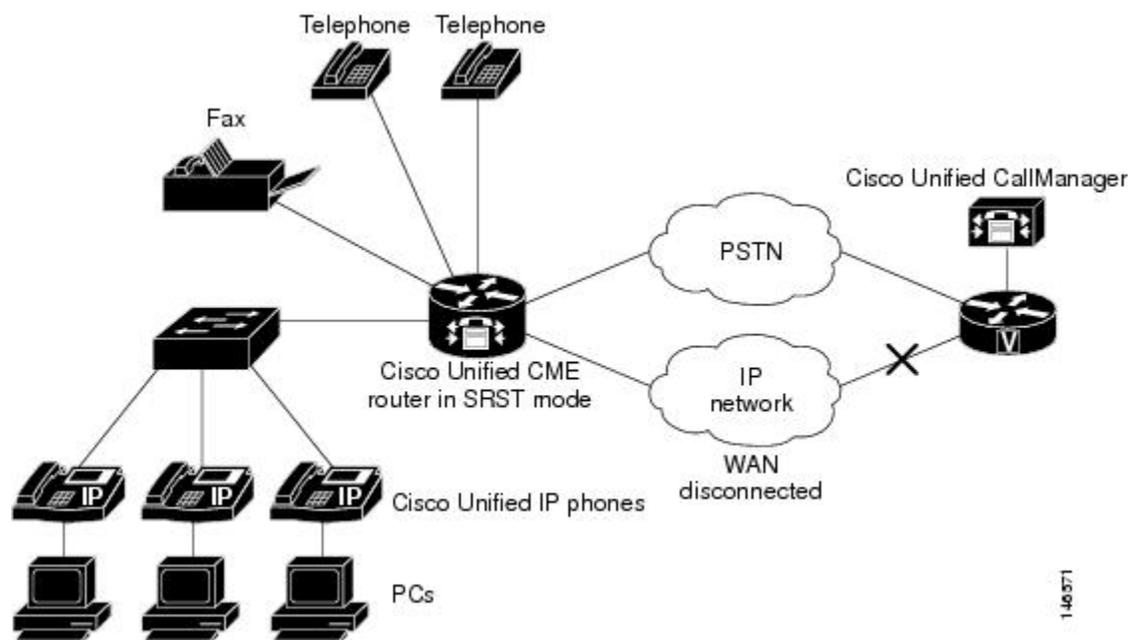
Cisco Unified IP Phone は、アクティブ コールに関与する場合にセントラル オフィスにあるプライマリ Cisco Unified Communications Manager との接続を再確立しません。

#### 最初のフォールバック後

ephone ハント グループなどの追加機能をセットアップでき、これには学習された内線と事前作成された内線を含めることができます。学習されたものか、設定されたものかに関係なく、IP Phone および内線は Cisco Unified CME 電話機の中核機能すべてを使用できます。

図 1 : Cisco Unified CME を使用した SRST フォールバック サポート は、SRST フォールバック モードで Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータに接続された複数の Cisco Unified IP Phone があるブランチオフィスを示しています。このルータは、WAN リンクと PSTN の両方への接続を提供します。Cisco Unified IP Phone は、WAN リンク経由でセントラルオフィスにあるプライマリ Cisco Unified Communications Manager に接続します。Cisco Unified CME は、WAN リンク経由の接続が中断したときに SRST サービスを電話機に提供します。

図 1 : Cisco Unified CME を使用した SRST フォールバック サポート



146571

## Cisco Unified CME 電話機設定の事前作成

Cisco Unified CME ephone-dn を事前作成しておくことで、内線番号およびいくつかの機能とともにディレクトリ番号セットを作成できます。これらは通常動作時に提供されるサービスに似たサービスをフォールバック時に提供します。通常の内線をすべて、または限られた内線セットを事前作成することや、あるいは内線をまったく事前作成しないこともできます。フォールバック時に SRST モードの Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータによって「学習」されると、事前構築されていないディレクトリ番号が内線番号と機能によって入力されます。

ephone-dn はほとんどの場合に、通常の電話回線の IP に相当します。潜在的なコール接続を表し、仮想音声ポートおよび仮想ダイヤルピアと関連付けられます。ephone-dn には 1 つ以上の内線または電話番号が関連付けられ、これによりコール接続が可能になります。ephone-dn は単一回線（一度に 1 つのコール接続が可能）またはデュアルライン（2 つの同時コール接続が可能）にすることができます。デュアルライン ephone-dn は、コール転送またはコール待機（1 つのコールを保留にして別に接続）などの機能に便利です。シングルライン ephone-dn は、インターコム、ページング、および Message-Waiting Indication (MWI) などの特定の機能に必要です。詳細については、[Cisco Unified CME の概要](#)を参照してください。

Cisco Unified CME で ephone-dn が手動で設定された場合、着信コールは、VoIP ダイアルピアを使用した Cisco Unified Communications Manager ではなく、必ず Cisco Unified CME の手動設定の ephone-dn にルーティングされます。間違ったルーティングを避けるために、事前作成のディレクトリ番号の優先順位よりも、VoIP ダイアルピアの優先順位を高く設定してください。設定例は、[ドメインネームシステム \(DNS\) の事前構築の例 \(15 ページ\)](#) を参照してください。

## SRST フォールバックモードでの自動プロビジョニング ディレクトリ番号

Cisco Unified CME 4.3 以降のバージョンは、SRST フォールバック モードでオクトラインディレクトリ番号をサポートします。電話機のタイプに応じて、SRST フォールバック モードの Cisco Unified CME でオクトラインとデュアルラインの、どちらのディレクトリ番号を作成するかを指定できます。Cisco Unified IP Phone 7902 または 7920、あるいは Cisco VG224 または Cisco ATA に接続されたアナログ電話機の場合、デュアルラインディレクトリ番号がシステムによって作成されます。他のすべての電話機タイプでは、オクトラインディレクトリ番号が作成されます。これは ephone 設定情報から自動的に「学習」された ephone-dn のみに適用され、Cisco Unified Cisco Mobility Express で手動構成された ephone-dn には適用されません。

## SRST フォールバックモードの構成

### SRST フォールバック モードの有効化



**制約事項** SRST フォールバックモードに構成する Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータで **telephony-service setup** コマンドまたは **auto assign** コマンドを有効にしないでください。**telephony-service setup** コマンドを以前ルータで使用したことがある場合、セットアップ過程で作成した不要な ephone ディレクトリ番号を削除する必要があります。

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **srst mode auto-provision {all | dn | none}**
5. **srst dn line-mode {dual | dual-octo | octo | single}**
6. **srst dn template *template-tag***
7. **srst ephone template *template-tag***
8. **srst ephone description *string***
9. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>telephony-service</b> 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>srst mode auto-provision {all   dn   none}</b> 例： Router(config-telephony)# srst mode auto-provision none	Cisco Unified CME ルータの特権 SRST モードを有効にします。  • <b>all</b> — 実行中の構成に、学習済み ephone および ephone-dn 情報を含めます。  • <b>dn</b> — 実行中の構成に、学習済み ephone-dn 情報を含めます。  • <b>none</b> — 実行中の構成に、学習済み ephone または学習済み ephone-dn の情報を含めません。このキーワードは、Cisco Unified CME で SRST フォールバック サービスを Cisco Unified Communications Manager に提供する場合に使用します。
ステップ 5	<b>srst dn line-mode {dual   dual-octo   octo   single}</b> 例： Router(config-telephony)# srst dn line-mode dual-octo	(任意) Cisco Unified CME ルータでの SRST モードの ephone-dn の回線モードを指定します。  • <b>dual</b> — SRST フォールバック ephone-dns は、デュアル回線 ephone-dn です。  • <b>dual-octo</b> — SRST フォールバック ephone-dns は、電話機タイプに応じてデュアル回線か octo-line です。このキーワードは Cisco Unified CME 4.3 以降のバージョンでサポートされます。  • <b>octo</b> — SRST フォールバック ephone-dns は octo-line です。このキーワードは Cisco Unified CME 4.3 以降のバージョンでサポートされます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>single</b> — SRST フォールバック ephone-dns は単一 ephone-dns です。デフォルト値。</li> </ul> <p>(注) このコマンドは、<b>ephone-dn</b>がフォールバック時に学習される場合にのみ使用されず。<b>ephone-dn</b> 設定を事前作成した場合は無視されます。</p>
ステップ 6	<b>srst dn template <i>template-tag</i></b> 例： <pre>Router(config-telephony)# srst dn template 3</pre>	<p>(任意) Cisco Unified CME ルータにおいて SRST モードで使用する <b>ephone-dn</b> テンプレートを指定します。テンプレートには、テンプレートの作成時に指定された機能が含まれます。「<a href="#">フォールバックサポートのテンプレートの構成例：例 (14 ページ)</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>template-tag</b> — 既存 ephone-dn テンプレートの番号を特定します。範囲は 1 ~ 15 です。</li> </ul>
ステップ 7	<b>srst ephone template <i>template-tag</i></b> 例： <pre>Router(config-telephony)# srst ephone template 5</pre>	<p>(任意) Cisco Unified CME ルータにおいて SRST モードで使用する <b>ephone</b> テンプレートを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>template-tag</b> — 既存 ephone テンプレートの番号を特定します。範囲は 1 ~ 20 です。</li> </ul>
ステップ 8	<b>srst ephone description <i>string</i></b> 例： <pre>Router(config-telephony)# srst ephone description Cisco Unified CME SRST Fallback</pre>	<p>(任意) Cisco Unified CME ルータにおいて SRST モードで学習された <b>ephone</b> に関連付ける説明を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>string</b> — <b>ephone</b> に関連付ける説明。ストリングの最大長は 100 文字です。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> 例： <pre>Router(config-telephony)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## SRST フォールバック モードの確認

ステップ 1 **show telephony-service all** または **show running-config** コマンドを使用して、SRST フォールバックモードがこのルータに設定されていることを確認します。

例：

```
telephony-service
```

```

srst mode auto-provision all
srst ephone template 5
srst ephone description srst fallback auto-provision phone : Jul 07 2005 17:45:08
srst dn template 8
srst dn line-mode dual
load 7960-7940 P00305000600
max-ephones 30
max-dn 60 preference 0
ip source-address 10.1.68.78 port 2000
max-redirect 20
system message "SRST Mode: Cisco Unified CME"
keepalive 10
max-conferences 8 gain -6
moh welcome.au
create cnf-files version-stamp Jan 01 2002 00:00:00

```

**ステップ2** フォールバック中に **show telephony-service ephone-dn** コマンドを使用して、**ephone-dn** 構成をレビューします。学習された **ephone-dn** は、SRST フォールバック中に学習されたことを示す行に示されています。

(注) **srst mode auto-provision** コマンドで **none** キーワードが使用された場合、学習済み **ephone-dn** は、**show running-config** コマンド の出力には表示されません。

例 :

```

ephone-dn 1 dual-line
number 4008
name 4008
description 4008
preference 0 secondary 9
huntstop
no huntstop channel
call-waiting beep
ephone-dn-template 8
This DN is learned from srst fallback ephones

```

**ステップ3** フォールバック中に **show telephony-service ephone** コマンドを使用して、**ephone** 構成をレビューします。学習された **ephone** は、SRST フォールバック中に学習されたことを示す行に示されています。

(注) **srst mode auto-provision** コマンドで **none** キーワードが使用された場合、学習済み **ephone** は、**show running-config** コマンド の出力には表示されません。

例 :

```

ephone 1
mac-address 0112.80B3.9C16
button 1:1
multicast-moh
ephone-template 5
Always send media packets to this router: No
Preferred codec: g711ulaw
user-locale JP
network-locale US
Description: "YOUR Description" : Oct 11 2005 09:58:27
This is a srst fallback phone

```

## Cisco Unified Cisco Mobility Express Phone 構成の事前作成

場合によって、内線番号といくつかの機能を備えた `ephone-dn` のセットを事前作成して、通常動作時に提供されるサービスに似たサービスをフォールバック時に提供できます。事前作成されない内線番号には、フォールバック時に SRST モードの Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータによって内線番号と機能が「学習」されたときに、その内線番号と機能が読み込まれません。



- (注) Cisco Unified Cisco Mobility Express で Cisco Unified Communications Manager 電話機の `ephone-dn` を事前作成する場合に誤ったルーティングを避けるには、**preference** コマンドを `ephone-dn` および `voip-dial-peer` 構成モードで使用して、事前作成のディレクトリ番号の優先順位よりも、VoIP ダイアルピアの優先順位を高く (0 が最高) します。設定例は、[ドメインネームシステム \(DNS\) の事前構築の例 \(15 ページ\)](#) を参照してください。

フォールバックモードの電話機に関連付ける最も一般的な機能をいくつかセットアップするには、次の手順を参照してください。

- [SCCP 電話機の電話番号の作成](#)
- [通話パークまたはダイレクトされた通話パークの有効化](#)
- [Ephone テンプレートの作成](#)
- [Ephone-dn テンプレートの作成](#)
- [SCCP 電話機での ephone-Hunt グループの構成](#)



- (注) SRST フォールバックモード時のハントグループをサポートするには、明示的なハント選択の優先順位の順に **dial-peer hunt** コマンドを構成する必要があることに注意してください。

## フォールバックサポートのコールピックアップの変更

フォールバック電話機に特に便利な機能は、Cisco Unified CME の [ピックアップ (PickUp)] ソフトキーの動作を変更して、Cisco Unified Communications Manager の [ピックアップ (PickUp)] ソフトキーの動作と一致させることです。フォールバック サポート用にコールピックアップ機能を変更するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**

4. **no service directed-pickup**
5. **create cnf-files**
6. **reset all**
7. **exit**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>telephony-service</b> 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>no service directed-pickup</b> 例： Router(telephony)# no service directed-pickup	(任意) ダイレクトコールピックアップを無効にし、[ピック (PickUp)] ソフトキーの動作を変更して、ユーザがそのキーを押したときにダイレクトコールピックアップではなくローカルグループピックアップが起動するようにします。この動作は、Cisco Unified Communications Manager の [ピック (PickUp)] ソフトキーの動作と一致しています。  (注) service-phone 設定を有効化に変更するには、 <b>create cnf-files</b> コマンドを使用して Sep*.conf.xml ファイルを更新し、 <b>reset</b> コマンドを使用して、電話機をリブートする必要があります。
ステップ 5	<b>create cnf-files</b> 例： Router(telephony)# create cnf-files	Cisco Unified IP Phone の XML 構成ファイルを構築します。
ステップ 6	<b>reset all</b> 例： Router(telephony)# reset all	すべての電話機をリセットします。
ステップ 7	<b>exit</b> 例：	ダイヤルピア コンフィギュレーション モードを終了します。

コマンドまたはアクション	目的
Router(telephony)# exit	

## SRST フォールバック モードの設定例

### SRST モード有効化の例

次の例では、Cisco Unified CME ルータで SRST モードを有効にします。学習されたフォールバック ephone-dn はデュアルラインモードで作成し、efone-dn テンプレート 3 をその設定パラメータに使用する必要があることを指定します。学習された ephone は ephone テンプレート 5 のパラメータを使用します。説明が電話機に関連付けられます。

```
telephony-service
max-ephones 30
max-dn 60 preference 0
srst mode auto-provision all
srst dn line-mode dual
srst dn template 3
srst ephone description srst fallback auto-provision phone
srst ephone template 5
.
.
.
```

次の **show running-config** コマンド出力の一部には、フォールバック中に学習された ephone 1 の設定が示されています。説明には **show running-config** マンドが使用された日付と時刻のタイムスタンプが付きます。学習されたものではない、事前作成された ephone2 の設定を比較のために示してあります。

```
ephone 1
description srst fallback auto-provision phone : Jul 07 2005 17:45:08
ephone-template 5
mac-address 100A.7052.2AAE
button 1:1 2:2

ephone 2
mac-address 1002.CD64.A24A
type 7960
button 1:3
```

次の **show running-config** コマンド出力の一部には、efone-dn 1 から ephone-dn 3 の構成が示されています。3つの ephone はすべてが学習された ephone-dn で、telephony-service コンフィギュレーションモードのコマンドの指定に従い、デュアルラインモードで設定され、efone-dn テンプレート 5 を使用します。

```
ephone-dn 1 dual-line
number 7001
description 7001
name 7001
ephone-dn-template 5
This DN is learned from srst fallback ephones
```

```

!
!
ephone-dn 2 dual-line
  number 4005
  name 4005
  ephone-dn-template 5
  This DN is learned from srst fallback ephones
!
!
ephone-dn 3 dual-line
  number 4002
  label 4002
  name 4002
  ephone-dn-template 5
  This DN is learned from srst fallback ephones

```

## フォールバックサポートのプロビジョニング ディレクトリ番号の例

次の例では、フォールバック電話機に使用される5つの ephone-dn および2つの通話パークスロットをセットアップします。

```

ephone-dn 1
  number 1101
  name Register 1

ephone-dn 2
  number 1102
  name Register 2

ephone-dn 3
  number 1103
  name Register 3

ephone-dn 4
  number 1104
  name Register 4

ephone-dn 5
  number 1105
  name Register 5

ephone-dn 21
  number 1121
  name Park Slot 1
  park-slot timeout 60 limit 3 recall alternate 1100

ephone-dn 22
  number 1122
  name Park Slot 2
  park-slot timeout 60 limit 3 recall alternate 1100

```

## フォールバックサポートのテンプレートの構成例：例

次の例では、Cisco Unified CME 機能を使用した SRST フォールバック サポートで使用される ephone-dn テンプレート 3 および ephone テンプレート 5 を作成します。 ephone-dn テンプレート 3 は、フォールバック電話機をピックアップグループ 24 に追加し、話中および無応答の状態のコール自動転送を内線 1100 に指定します。 ephone テンプレート 5 は、フォールバック電

話機の [ディレクトリ (Directories)] > [ローカル サービス (Local Services)] > [個人スピードダイヤル (Personal Speed Dials)] オプションでメニューエントリとして表示される 2 つのスピードダイヤル番号を定義し、またフォールバック電話機のソフトキーレイアウトも指定します。

```
ephone-dn-template 3
pickup-group 24
call-forward busy 1100
call-forward noan 1100 timeout 45

ephone-template 5
fastdial 1 1101 name Front Register
fastdial 2 918005550111 Headquarters
softkeys idle Newcall Cfwdall Pickup
softkeys seized Endcall Cfwdall Pickup
softkeys alerting Endcall
softkeys connected Endcall Hold Park Transfer
```

## フォールバックサポートのハントグループ有効化の例

次の例では、(1) 明示的な優先順位、(2) 電話番号の最長一致、(3) ランダム選択の順でハントするようにダイヤルピアを構成します。SRST フォールバックモード時のハントグループをサポートするには、明示的なハント選択の優先順位の順に **dial-peer hunt** コマンドを構成する必要があります。

```
dial-peer hunt 2
```

次の例では、パイロット番号 1111 を持つピア ハントグループを作成します。

```
ephone-hunt 3 peer
pilot 1111
list 1101, 1102, 1103
hops 3
timeout 25
final 1100
```

## フォールバックサポートのコールピックアップ修正の例

次の例では、[ピック (PickUp)] ソフトキーの動作が Cisco Unified Communications Manager での動作と同様になるよう変更します。

```
telephony-service
no service directed-pickup
create cnf-files
```

## ドメインネームシステム (DNS) の事前構築の例

次の部分的な例では、ephone-dn および voip-dial-peer モードの **preference** コマンドは、手動構成のディレクトリ番号 (ephone-dn1) の優先設定 (1) よりも高い優先設定 (0) で voip ダイヤルピアを作成するように構成されています。

```

dial-peer voice 1002
  voip destination-pattern 1019
  .
  .
  .
  preference 0 <<=====This dial peer has precedence and will match first.

ephone-dn 1
  number 1019
  preference 1 <<=====Configure lower preference for prebuilt DN.

```

## SRST フォールバック モードの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: SRST フォールバック モードの機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	機能情報
オクトラインディレクトリ番号	4.3	オクトラインディレクトリ番号のサポートが追加されました。
Cisco Unified CME を使用した SRST フォールバック サポート	4.0	Cisco Unified Cisco Mobility Express を使用した SRST フォールバックが導入されました。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。